

第7回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議 会議概要

- 1 会議名..... 第7回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議.....
- 2 日 時..... 令和3年7月26日..... 午後2時から 午後4時まで.....
- 3 会 場..... 安曇野市役所本庁舎 3階 会議室 306.....
- 4 出席者..... 宮田弘康委員（会長）、白澤勇一委員（副会長）、中澤美穂委員、降旗治喜委員、川崎克之委員、松元 久委員、鶴飼博将委員、加集安行委員、米澤章雄委員.....
- 5 担当課出席者 商工観光部 久田部長、観光交流促進課 大竹課長、藤澤係長、由井係長、古畑.....
- 6 公開・非公開の別..... 公開.....
- 7 傍聴人..... 1人..... 記者..... 0人.....
- 8 会議概要作成年月日..... 令和3年8月3日.....

協 議 事 項 等

【次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事 (1) 令和2年度事業評価集計結果について
- 4 その他
- 5 閉会

【議事内容】

(1) 令和2年度事業評価集計結果について

●事前に委員から提出された評価シートをまとめた「評価集計表」により進行。主要施策ごとに事務局から集計による総合評価を報告。その後、委員から意見をいただき総合評価を決定。
主要施策、総合評価(意見等により変更した場合は「A→B」のように記)、出された意見を以下に記載。

【主要施策1-1 自然資源の保全】 A

(意見なし)

【主要施策1-2 自然資源の活用】 A

〈委員〉 温泉を利用した観光客誘客についてはBとした。飲食店、土産物店、他の観光地などとの横の連携があまり見受けられない。今後改善して行ってほしい。また、温泉としての認知も意外と低い。安曇野の温泉はあまり知られていないように思われる。誘客に向けたアピールの手段があるのでは。今はまだ不十分。

〈会長〉 県内の温泉ベスト 10、ベスト 20 などの企画にも安曇野や白馬などの温泉は一度も出てこない。誰も知らないということだと思ふ。せっかくの温泉なので活用すべき。

〈副会長〉 しゃくなげの湯や八面大王足湯は観光客が多く使うが、湯多里山の神は観光客はほとんど行かず、地元客や松本市からの客が多いのが実態。もし温泉施設の連携をとるなら湯多里にも観光客が行かれるような施策を考えたほうがいいし、逆にそうしないのであれば観光施設のなかから外してもいいとも思うがその明確さが不明。また、英語登山ガイドは資格をとった後どういった仕事があるのか、ということまで案内しておいたほうがいい。

〈委員〉 英語登山ガイド養成について、地域通訳案内士を養成して、どういうビジョンで将来動かすのかが見えていない。白馬の通訳案内士制度のほうがよほど良い。

〈会長〉 資格をとったらどうするのか。あっせんするところがあるのか。具体性がまったく見えない。温泉についてはなぜこの3つを挙げてあるのか。他にも公の温泉施設はあると思うが。

【主要施策1-3 自然環境への配慮】 A → B

〈委員〉 登山者用駐車場はすぐにいっぱいになり、通行の妨げになっている。有料化を検討したほうがよい。

〈副会長〉 まったく同意見。中房駐車場は登山シーズンは常に満車状態。緊急車両や旅館の送迎車両、路線バスが入っていけない。至急有料化を検討すべき。有料化が難しいのであれば、上高地のように自然環境配慮ということでマイカー規制もありと考える。

〈委員〉 自転車利用の促進について、年配の方も多く高低差もかなり大きくなかでどの程度活用が進んだのか疑問に思う。明確な成果があったかも不明。それより公共交通機関の充実や自動車利用の減少について検討したほうがいい。さきほどの駐車場有料化もひとつの手だと思う。

〈会長〉 市としては登山客を増やそうということが観光の目的のひとつになっている。上の登山者用駐車場が満車になるから下にも作りそちらを案内する。それはよくわかるが、ではそれをどうや

ってつなぐのか。有料にして利用者が減ったらどうするのか、などいろいろ課題がある。この項目について個別評価はAとなっているが変えることはできるか。

〈事務局〉 ここでの皆さんのご意見により変更したということであれば。

〈委員〉 整備自体の問題と、それをいかに活用するかということは切り分けて考えていかなければいけない。整備するということについてはAで問題ないが、活用のところでは改善の余地があるし工夫していかなければいけないと思う。

〈委員〉 整備はAでよい。利用の仕方については考えていかなければいけない。

〈委員〉 関連して、市内には有料の駐車場が無い。車で来た人が他の観光地へ寄るにしても自転車を利用するにしても、そういったことを一緒に考えていく必要もある。

〈委員〉 登山者を受け入れる方向性がどうなのかと。受け入れ態勢的に。自家用車では行きやすいがタクシーは今コロナで台数も減っている模様。交通と絡めるとなかなか難しい。進めることはいいが具体性についても考えたほうがいい。

〈会長〉 駐車場の項目についてはAからBに変更していいか。あわせて、自転車利用の促進についても、市内で自転車を借りて散策するにしてもどこに車をとめればいいのかという問題があることから、事業の進め方を改善する必要があると考えられるのでこちらもBにし、総合評価もBにしてい

いか。

(異議なし)

【主要施策2-1 「農」や「里山」のある暮らしの維持・継承】 A

〈会長〉 ここで誤りがある。4項目めの荒廃農地対策について、昨年この会議で出たとおり観光とは直接関係ないという話になり同意いただいているのにまたあえて出してしまう不手際。今回の評価には加えないということでもいいか。

(異議なし)

〈副会長〉 光城山1000人SAKURAプロジェクトと東山トレイルコースの造成が結びつかない。

〈会長〉 事務局で調整されていて、トレイルコースを作ることはプロジェクト側に了解を得て進めているということでもいいか。

〈事務局〉 区が中心となっているSAKURAプロジェクト側には、トレイルコースを構想するにあたりコース案内等の話はさせてもらっている。

〈会長〉 里山の再生については、観光とどうつながるのか説明を。

〈事務局〉 観光客に自然を身近に感じてもらう、里山を歩いてもらうことと考える。

〈会長〉 ということは里山のなかに観光遊歩道を作っているところがあるということでもいいか。

〈事務局〉 そういった活用を考えているという段階。

〈副会長〉 里山の再生活動そのものを評価するのか、再生された里山に観光客を呼ぶことを評価するのか、ということがよく見えていない。観光振興ビジョンとしてやるのなら後者。

〈会長〉 遊歩道を作るのは観光課の事業なのか。所管ではない。林務担当課に依頼し作ったものを観光課でこうアピールしたい、ということが里山の再生。そうなるとこの評価はAではない。林務担当がやるべき仕事はここで評価することではない。この項目も評価には加えないということでもいいか。

(異議なし)

【主要施策2-2 地産地消の促進】 A → B

〈会長〉 地産地消がナポリタンなのか、というところ。昨年度の会議でも話が出たが、安曇野市の代表すべき土産が無いので安曇野の農産物などを活用し土産品を作れば、ということになっていたかと思う。なのにまたナポリタンが出ていることについて事務局から説明を。

〈事務局〉 現在も推進しているものとして入れてある。土産品の件については今年度から関係団体の会議で協議を始めている。

〈委員〉 個別評価の内訳、Aが6、Bが5、Cが1であれば、BCの合計から評価はBでは。

〈会長〉 事業を進めるなかでも改善が必要ということもあるので、総合評価をBとしていいか。

(異議なし)

【主要施策3-1 歴史・伝統の継承・活用】 A

〈鶴飼委員〉 屋敷林と歴史的まちなみプロジェクトの部分にホームページで情報発信とあるが、どのくらい人に見られているのかという分析が書かれていない。この事業に限らずだが、効果があったかの検証はぜひやってもらいたい。

【主要施策3-2 芸術・文化の活用・連携】 B

〈委員〉 理解がないのはわかるがどんな観点からBなのかというところ。アートラインについて安

曇野市は力を入れていない。行政がやらないで民間が頑張っているのにBの評価はない。

〈委員〉 安曇野がアートの文化を持っていることは十分理解している。集客やプロモーションが不十分なのではないか。市もあげて積極的にアピールする必要があるが足りない。

〈会長〉 アートライン事業についてBということではなく、集客をしていないことについてBということではとらえたほうがいい。

〈委員〉 コロナもあり来訪が少ないのは当然。ただ、通常時でも県外客がほとんどで地元の人は全然来ない。これでアートの安曇野と言えるのかということ。アピール度ということはどうしたらよいか。

〈会長〉 松川村の安曇野ちひろ美術館は松川村民は無料で入館でき、村からその分の補助が出ていると聞いたことがある。安曇野でもそういったことが可能なのか。

〈事務局〉 検討していかなければいけないと思う。どうやれば集客につながるのかということを含め、アートライン推進協議会の事務局にも提案していきたい。

【主要施策3-3 地域産業の活用・連携】 B

(意見なし)

【主要施策4-1 コミュニティビジネスの支援】 A → 評価なし

〈会長〉 コミュニティビジネスを事務局がわかっていないのでは。この事業はコミュニティビジネスではない。

〈委員〉 施策ではなく内容について評価をした。この内容は違う施策に入っていたほうがいい。

〈会長〉 内容は非常に良いが、ここに入れるべきものではない。

〈委員〉 内容は3-1に入れてもらいたい。

〈会長〉 コミュニティビジネスとは言えないので施策の評価はなしとしたいがいいか。

(異議なし)

〈会長〉 この事業を然るべき施策へ移動をし、移した場所で事業自体の評価はAとする。

【主要施策4-2 安曇野暮らしツーリズムの普及・啓発】 A → B

〈会長〉 中学生へのビデオレターというのは観光課が行った仕事ではない。観光として評価するものなのか。

〈副会長〉 観光事業とするなら旅行エージェントへの発信を。

〈会長〉 ビデオレターを出したことということはAでよいが、観光としての取り組みとしてはAではない。事業の進め方について改善が必要とも思うので、Bとしていいか。

(異議なし)

【主要施策4-3 移住希望者やリピーターとのネットワーク化の推進】 A → B

〈会長〉 FMが江戸川だけなのはなぜか。友好都市は他にもあると思うが。

〈委員〉 海外の友好都市は経費もかかるので、将来のことを考え廃止にしたほうがいい。

〈会長〉 施策に移住希望者やリピーターとのネットワーク化の推進、とあるが、友好都市との交流やイベントの開催などがそれに該当するのか。皆さんは不思議には思わないか。

〈副会長〉 解釈とすれば、他県からのイベント参加者がここを好きになり、移住定住の希望に結びついていけばいいと考えてみた。

〈会長〉 各イベント会場に移住定住のブースがありパンフレット等を展示している、ということでもいいか。

〈事務局〉 具体的なブース展示等はしていないが、今後そういう必要性を考えていきたい。

〈会長〉 なぜここに載せたかということ。移住希望者のネットワーク化の推進につながるのか。

〈事務局〉 コロナで中止となった間も、イベントへのリピーターを次へつなぐということを重視してきた。リピーターの定着やそのネットワークから、移住というところまではまだいらないが観光へのアピールということを行っている。

〈会長〉 イベント項目については皆さんの評価もほとんどがAなのでこれは問題ない。各イベントのリピーターを観光リピーターにつなげ、併せてIターンUターンにつなげることも必要。ここに書いてあること自体を観光に今後つなげていっていただきたい。お試し住宅は観光ではない。総合的に、事業の改善が必要と判断、Bとしたいがいいか。

(異議なし)

【主要施策4-4 広域連携の推進】 A → 評価なし

〈会長〉 意味がわからない。広域連携というのは周辺市町村との連携。内容があてはまらない。

〈事務局〉 ここにあってはいけない。大変申し訳ない。

〈会長〉 やった内容についてはAとして、この施策としては評価しないということに。

【主要施策5-1 観光関連産業の強化】 A

(意見なし)

【主要施策5-2 農商工観連携の強化】 A

〈会長〉 4つが連携しなければいけないのか。

〈委員〉 農と観との連携で出ているが、観と他との連携は具体的に話が進んでいるか。

〈事務局〉 実際には、新そばと食の感謝祭など観と商との連携事業もあるが、昨年以降、人を集めて行うことができないため実績として記載できない。

【主要施策5-3 安定財源の確保】 A → 評価なし

〈委員〉 安定財源の確保とするとクラウドファンディングは小さい話なのでは。

〈会長〉 そもそも安定財源なのか。毎年観光のために数千万円、というならわかるが。

〈委員〉 駐車場有料化などならいいが。

〈会長〉 この内容であれば1-1へ行くべき。評価自体はAで問題ない。安定財源の確保については具体的なものをまた改めて加えていただき、現時点ではこれは評価しない。

【観光基盤整備 観光推進体制の構築】 A

〈委員〉 観光協会の場所については昨年も話が出ていたが、交通インフラの情報発信の点からしても観光協会がもっと表に立ってもいいと思う。そのためには場所をしっかりと検討しないと、良いサービスが観光客に行きわたらない。まとまったことが何もできていない現状なのでは。

〈委員〉 協会の立場として、広報が足りないと言っている。会員全員にパンフレットを配らせたかどうか。周遊バスのパンフレットを要らないと言う会員もいるそうだが。観光業として観光案内をしないのはおかしいと思っている。

〈副会長〉 必要という施設にお渡ししている。施設それぞれの考え方もある。

〈委員〉 私は観光情報センターに行き、必要なものをもらってくる。会員としてそのくらいの努力はしなくてはいけないと思っている。協会、情報センターの場所が悪い、知られていないということは承知している。その上でどういう活用の仕方があるかということ。

〈会長〉 プラットフォームをどこにするかという問題がある。今の状況でそれが観光協会なのかというと、そうではないと個人的には思う。

〈副会長〉 観光振興ビジョンの67ページにある図のようにはいかないと考える。

〈会長〉 ひとつひとつの事業についての評価も必要ではあるが、観光基盤整備のこの図(67ページ)について、本来は有識者会議で評価しなければまずいと思う。協議しそれによって次の新しいビジョンにどう組み入れていくかを考えていかなければいけない。できれば観光協会で、現状からできること、できないこと、改正したほうがいいことなどで作っていただき、委員から意見をもらって参考資料として次期ビジョンに生かしていくことも必要かと思う。

【観光基盤整備 観光基盤の充実・強化】 A

(意見なし)

【観光基盤整備 イベントを通じた来訪戦略】 B

〈会長〉 有識者会議でやるべきことは観光振興ビジョンの評価。観光振興ビジョン43ページには2つの観光基盤整備項目はあるが「イベントを通じた来訪戦略」というものはうたわれてないがどうして出てきたのか。項目が無いから勝手に付け加えたということでもいいか。

〈事務局〉 イベントを使った来訪戦略ということで、事業として評価いただきたいことから入っている。中間評価にもあったことから掲げている。

〈会長〉 ビジョンとは関係ないが評価してほしいということか。参考資料として進める。

〈副会長〉 田んぼアートについては、誘客面では有効なイベントだとは思いますが採算ベースが合わない。現在の実施場所についても先行きが不透明。マーケティング調査などが不十分であった。

〈会長〉 時期も悪かったかと思う。スイス村のこともある。場所も含めた改善が必要。

◇

〈事務局〉 主要施策4-4【広域連携の推進】については、次回会議であらためて上程して評価をお願いします。

〈会長〉 4-1【コミュニティビジネスの支援】についても、評価すべきものがあれば挙げておいていただきたい。

(協議終了)

※ 会議概要は、原則として公開します。

※ 会議を非公開または一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。